

生涯学習フェスティバルinパレア開催

子どものものづくり（化石レプリカづくりなど）体験活動を中心としたイベントが開催されます。

また、映画化・ドラマ化された漫画「ペコロスの母に会いに行く」の著者岡野雄一氏による基調講演は、著書にはない裏話などが聞くことができます。

ぜひ、家族や子ども会などの団体で、お越しください。

とき 平成27年1月24日（土）

午前10時～午後4時

ところ 熊本県民交流館パレア（熊本
市中央区手取本町8-9）

基調講演

講師 岡野雄一氏

演題 「ペコロスの母に会いに行く」

「ボケるとも、悪かことばかり
じゃなかかもしれん」

料金 無料（事前申し込みが必要）

申し込み先

〒860-0855 熊本県生涯学習推進センター（熊本
市中央区手取本町8-9）

FAX 096・355・4317

申し込み期限

平成27年1月8日（木）

※申し込み多数の場合は抽選
問い合わせ先

熊本県生涯学習センター

096・355・4312

落語家 桂福点さんの講演会
観覧者募集

全盲の落語家で音楽療法士の桂福点さんに、障がい者の人への理解や音楽療法などについての、講演と創作落語を披露いただく予定です。

とき 12月16日（火） 午後1時～

ところ 熊本県民交流館パレア（熊本
市中央区手取本町8-9）

参加費 無料（事前の申し込みが必要）

定員 300人

※定員に達し次第、申し込みを締め切ります。詳しくは左記までお問い合わせください。

問い合わせ先

熊本県障がい者支援課

096・333・2237

政治家の寄附は禁止、有権者が求めることも禁止されています

年末年始は何かと贈り物やお祝い事をする機会の多いシーズンですが、政治家が選挙区内の人に、お金や物を贈ることは公職選挙法で禁止されています。また、有権者が政治家に寄附や贈り物を求めることも禁止されています。寄附禁止のルールを守って、明るい選挙を実現しましょう。

【三ない運動】贈らない!求めない!受け取らない!

政治家と有権者のクリーンな関係を保ち、お金のかからない選挙を実現するために、以下の寄附禁止のルールを守りましょう。

- ①政治家の寄附の禁止
- ②政治家に対する寄附の勧誘・要求の禁止
- ③政治家の関係団体の寄附の禁止
- ④後援団体の寄附の禁止
- ⑤年賀状等のあいさつ状の禁止
- ⑥あいさつを目的とする有料広告の禁止

詳しくはこちらをご覧ください。
総務省 なるほど!選挙「寄附の禁止」
ホームページアドレス http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/naruhodo/naruhodo08.html

歴史調査の楽しみ方

江栗城跡

14

大田 幸博

（元菊水町史編集委員会副委員長）

今

M区

年も残すところ、1ヶ月余りに
なりました。「光陰矢のごとし」
とは、良く言ったものです。また、
歳を重ねます。

帯状丘陵地の括れ箇所、「野首」と呼
ばれます。江栗城跡の地形は、ここを境に、
南北両側で、大きく異なります。北側は帯
状地形がそのまま端部まで続き、南側は、
ラップ状に膨らんで、I郭〜III郭の縄張り
形成されています。この様な場合、通常の
山城（平山城）では、野首が堀切で断ち切
られて、内側が真の城域、外側の帯状地形
が、外縁地区となります。

ところが、江栗城跡では、野首に堀切が
存在しませんので、城域の見極めが非常に
困難です。地形図で見ると、この野首から、
400m先に、地形の末端部があります。

60は、野首に手を加えた造成地です。全
長42m、幅4〜2.5m。この区画によつて、地
形の括れ箇所が、さらに狭くなっています。
ある意味で、堀切に準ずる区画です。

61は、丘陵地の背面を通る尾根道で、II
郭から南側へ顕著に認められます。しか
し、野首から北側は、背面から少し東下へ
ずれて、造成されています。程なくして、第
2衛生センターの北門口へ下つています。九
電鉄塔建設時の資材搬入道とも思えます

が、借地では、造れないほどの大規模工事が
なされています。原形は、城内から、北下の
古道（現・県道）へ至る抜け道と推察されま
す。

62は、野首の上段から始まります。上に
登ると（高低差1m）、北側へ長さ30m分は、
幅3m程で、まさに、土塁そのものの感じが
します。そして、それから先は、やや幅広の
帯状の丘陵地に変化して、北へ延びていき
ます。この地形は、丘陵の北側主軸部分に
あたります。上面域は、大方、平らです。

62の西縁下は、直に近い急斜面で、一
方、第2衛生センター側の東側は、緩斜面の
状況にあります。西縁下は、急傾斜地に手
を加えて、極めて、堅固な防衛ラインが形
成されています。東側のエリアは、段状地形
になつていて、ここに、守備兵の配置が出来
ます。この様に、野首から北側の区域も、重
要な役目を果たしている事が分かります。

〔付記1〕江栗城跡の様に、縦長の帯状丘
陵地に築かれた町内城跡は、内田今城跡
が挙げられます（調査済み）。内田地区に
今城の字名が残っています。江栗城跡と同
じ文献未記載です。

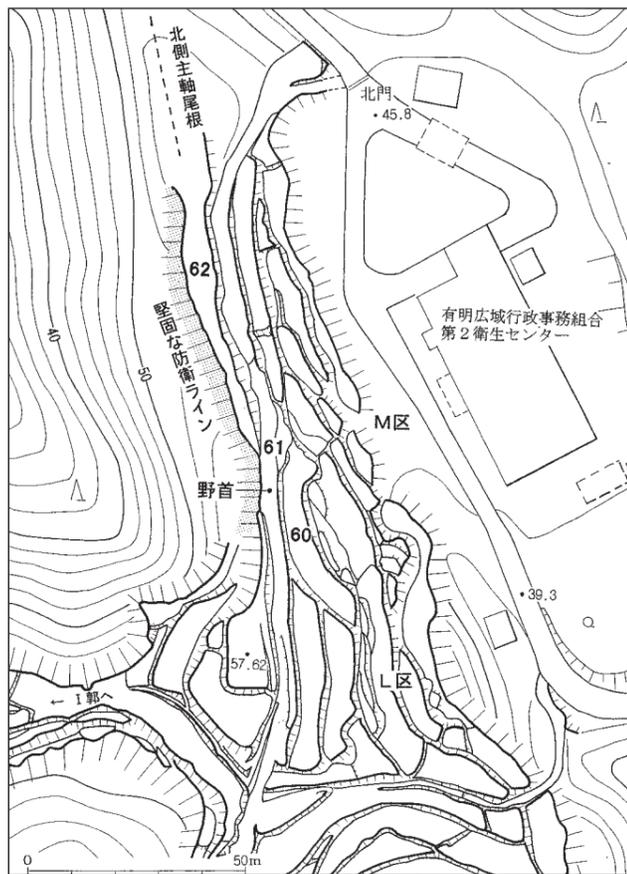
内田今城跡は、全長600mにも及びま
す。この城跡では、III郭の北側に堀切が残っ
ています。しかし、堀切の上幅は、4mと
狭く、それより南域にも、I郭〜III郭と同

様に、人工的な地形が続いており、縄張り
としてのまとまりが感じられます。「捨て
曲輪」の役目を果たした区域と見なされ
ます。

内田今城跡は、村のセンター的な城跡と
考えられます。平時は、領民の精神的な拠
り所、城と籠集落が一体化した「総構え
の城」であったと推定されます。有事の際
は、城地での白兵戦が必至ですが、その際
に、敵勢を一旦、外縁地区に誘い込む戦法

が取られました。ここでの戦いは、最終的な
勝敗に関係ありません。敵方の勢力の様
子を見て、それからその曲輪を捨て、城内
での本戦に持ち込む手筈であったと思われ
ます。万一の場合、逃げ道にもなりまし
た。そのために、「捨て曲輪」と呼ばれたの
です。

この様に、内田今城跡の調査結果と比較
することで、江栗城跡の本質が推察出来ま
す。



江栗城跡 II郭縄張り図(中心域より北側)